

# 人間ドック・健診のご案内

耳原総合病院健診課では、健診を地域や働く人々の健康を守る最初の窓口として位置づけています。生活習慣病や早期がんの発見など、健診の果たす役割は重要です。今後一層健診を勧め、地域の健康増進の一助となれればと考えています。

## ■お問い合わせ

耳原総合病院健診課  
072-241-0501(代表)



## 耳原総合病院健診課 半日人間ドックのご案内

半日である程度のスクリーニングが可能な半日ドックを行っています。生活習慣病のチェックや、オプション検査と組み合わせ、早期がんの発見を目的としています。完全予約制となっており、お電話でご予約いただけます。予約いただいたときにオプション検査の相談もさせていただきます。月～土(木日祝は除きます)の午前にも実施しており、結果報告は医師からの直接の説明(要予約)および自宅へ郵送いたします。

### 半日ドック検査内容

検査内容	詳細
身体測定	身長・体重・体脂肪・腹囲
血圧測定	
聴力測定	
眼科	眼底カメラ 視力
生理機能検査	心電図 簡易スパイロ検査
血液検査	血算 肝腎臓機能 脂質 糖代謝 痛風 炎症反応 梅毒 肝炎ウィルス 腫瘍マーカー (AFP・CEA)
尿検査	蛋白 糖 潜血 沈渣
便潜血反応検査	2回法
胸部単純X線	
腹部エコー検査	
上部消化管検査	胃透視検査もしくは胃内視鏡
婦人科健診	子宮頸がん 乳がん

### 人間ドック費用

名称		一般価格	みみはら友の会価格
半日ドック	男性	30,450円	27,300円
	女性	31,500円	28,350円
堺市国保ドック	男性	12,000円	堺市国民健康保険に加入されている30歳以上の方が対象です
	女性	12,900円	
高石市国保ドック	男性	22,000円	高石市国民健康保険に加入されている40歳以上の方が対象です
	女性		

※ドックの種類によって検査項目や料金が異なりますのでご確認ください。  
※後期高齢者医療被保険者証をお持ちの方は受診後申請することにより26,000円を上限とした助成制度があります。

### 人間ドックオプション検査

検査内容	目的	一般価格	みみはら友の会価格
肺ヘリカルCT	肺がん	7,880円	6,300円
頭部CT	脳梗塞	7,880円	6,300円
骨密度測定	骨粗しょう症	3,150円	2,100円
前立腺腫瘍マーカー(採血)	前立腺がん	2,100円	1,680円
経膈エコー	子宮・卵巣疾患		1,600円

## 耳原総合病院健診課 健診のご案内

地域住民を対象とした公的検診も行っています。対象年齢や費用、受診回数などにご注意ください。

### 堺市公的検診

検診名	対象年齢	検査方法	検査費用	
			40歳～64歳	65歳以上
大腸がん検診	堺市在住の40歳以上	便潜血反応2法回	40歳～64歳	300円
			65歳以上	無料
子宮がん検診	堺市在住の20歳以上(偶数年齢)	細胞診検査	20歳～64歳	500円
			66歳以上	無料
乳がん検診	堺市在住の30歳～39歳	触診のみ	30歳～39歳	400円
			40歳～64歳	900円
	堺市在住の40歳以上(偶数年齢)	触診・マンモグラフィ	66歳以上	無料

### 特定健康診査・特定保健指導

特定健康診査とは国のメタボリックシンドローム対策の柱として40歳から74歳の保険加入者を対象として2008年より導入された新しい健診で、糖尿病や高脂血症、高血圧症などの生活習慣病の発症や重症化を予防することを目的としています。この健診で異常が見つかった場合、医師、管理栄養士による特定保健指導も行っています。病気の人を拾い上げるのではなく、これから病気になりそうな人に対して医療関係者が早期介入することが目的です。

特定健診を受診するためには受診券と健康保険証が必要です

堺市国民健康保険の方は市役所から郵送される受診券をご持参ください。社会保険の方は(家族を含む)勤務先の事業所を経由してお申し込みください。75歳以上の方は郵送される「後期高齢者健康診査受診券」をご持参ください。



### 特定健康診査

検査項目	堺市国民健康保険	社会保険堺市以外の国民健康保険
身体計測	身長	40歳～64歳 500円 65歳～74歳 無料
	体重	
	BMI	
尿検査	腹囲	●一部負担金については加入されている保険者にお問い合わせください。
	貧血・肝機能	
血液検査	脂質・腎機能	●尿・採血の項目については堺市国民健康保険の方とは内容が変わります。
	糖質	
血圧測定		
診察		

### 先生方の健診もご相談ください

地域の健康を守る最前線で頑張っておられる開業医の先生方ですが、一方ご自身の健康管理にはあまり気を配っておられない方が多いように思います。日常診療でお忙しい中でなかなか時間を取ることは難しいと思いますが、日曜健診なども行っていますし、そのほかにも可能な限り受診に向けての調整を行いたいと思いますので、ぜひ健診課までお問い合わせください。



## みみはら高砂クリニック 小児科 不活化ポリオワクチン開始しました。

### ●急性灰白髄炎(ポリオ)について

急性灰白髄炎(ポリオ)は、一般的に小児マヒとも知られています。原因は、ポリオウイルスによる感染で、発症すると麻痺(マヒ)が起こり、その麻痺は治ることはありません。呼吸筋に影響すると死亡することもあります。なお、小児麻痺と呼ばれていますが、成人でもポリオウイルスに感染し、発症すれば、同様の麻痺を起こすことがあります。一度起こった麻痺は治療できないため、ワクチンによる予防が重要です。

日本では1960年代から飲むポリオワクチンが導入され、しだいにポリオ麻痺の患者は減っていきました。1981年にはWHO(世界保健機構)によって、日本におけるポリオの根絶宣言がされました。以後、野生株のポリオウイルスでポリオの新規発症はありません。世界でもポリオ根絶がすすんでいます。現在、ポリオウイルスが流行している地域は、ナイジェリアやインド、アフガニスタン、パキスタンの4

カ国です。最近では、中国の一部でポリオウイルスの流行があったという報道もあり、やはりワクチンによる予防は大切と考えます。

しかし国内では、現在でも新規のポリオ麻痺の患者がいます。現在、使用されている経口生ポリオワクチン(OPV)はまれに、ポリオを発症させることがあります。これをワクチン関連麻痺(VAPP)と呼びます。野生株によるポリオ発症がない中、日本ではこのVAPPが年間に数例ですが起こっています。頻度は100万～400万接種あたり1人に感染が起こるとされています。

日本のようなポリオ根絶された先進国、たとえばヨーロッパ諸国やアメリカ合衆国では、経口生ワクチンではなく、注射の不活化ポリオワクチンが利用されています。

### ●ポリオワクチンの種類 経口生ワクチン(OPV)と不活化ワクチン(IPV)

世界中で使われているポリオワクチンには、  
(1)生きているウイルスのうち毒性が弱いものでつくった「経口生ワクチン」(OPV)  
(2)ウイルスを化学処理して感染性や病原性をなくした「不活化ワクチン」(IPV)があります。

それぞれの比較は、別表のとおりですが、いま世界の多くの国では、不活化ワクチンへの移行がすすんでいます。経口生ワクチンを接種しているのは、日本・北朝鮮・モンゴル・中東・アフリカ・太平洋諸島・中南米のみであり、野生株による流行が見られない「先進国」で経口生ワクチンを使用しているのは日本だけという状況です。

### ●不活化ポリオワクチン接種について

不活化ポリオワクチンは、世界の標準では4回接種することで確実に免疫をつけることとされています。

**接種方法** (1) 不活化ワクチン(IPV) × 4回 (初回免疫3回 + 追加接種)  
(2) 不活化ワクチン(IPV) × 2回 + 経口(生)ワクチン(OPV) × 2回  
などの方法があります。どちらを選ばれても、免疫はしっかりつきます。

アメリカと同じスケジュールで接種すると、生後2カ月、4カ月、6カ月～1歳半にそれぞれ1回ずつ接種し、4歳から6歳の間にもう1回接種します。現在、多くの不活化ポリオワクチンを実施しているクリニックでは、このようなスケジュールです。

### 予約方法

翌月接種分はお電話のみで予約できます。  
詳細は高砂小児科メールマガジンをご覧ください。  
TEL072-241-4980(小児科直通)

### 接種金額

### 不活化ポリオワクチン

一般	5,000円 (4回接種で、20,000円)
友の会	4,500円 (4回接種で、18,000円)

経口生ポリオワクチン	比較項目	不活化ポリオワクチン
日本では国の定期接種に指定されている。春と秋に保健所などで一斉に接種する自治体が多い。	概略	日本では承認されていないが、海外では広く使われている。費用は自費となる。
ポリオウイルスのうち、毒性の弱いウイルス株を分離して精製して製造する。(生ワクチン)	精製方法	細胞にウイルスを感染させ増やしたポリオウイルスをホルマリン処理で死滅させて製造する。
口から飲む	接種方法	筋肉または皮下に注射する。
生後3カ月以上7歳半未満(通常、3カ月以上1歳半未満)に2回接種	接種回数	4回接種が標準(アメリカでは、生後2カ月・4カ月・6～18カ月・4～6歳で各1回)
・口から飲むので簡単、痛くない。・公費負担で、無料で受けられる ・接種後に重い副作用がでた場合、国が予防接種によると認定すれば、国の補償が受けられる ・免疫をつける作用が強い	利点	・接種によるポリオ発症は、起こる心配がない ・接種のあと、周囲の人にポリオウイルスを感染させることがない
・ワクチンのウイルスにより、まれにポリオを発症することがある ・接種した子供の便や唾液から周囲の人にポリオウイルス感染を起こすことがある	問題点	・経口生ワクチンよりは、免疫を長持ちさせる作用が弱い ・注射した部分に腫れや痛みなどが起こることがある ・重い副作用として、まれに急性のアレルギー症状(アナフィラキシーショック)が起こることがある。これは注射する予防接種では、全てに可能性があるものです ※日本では未承認なので、万が一重い副作用が起こっても国による補償は受けられない。(輸入業者による補償制度はある)

※補償が充分でないことに不安を感じられる方は、国内で承認されている「経口(生)ワクチン」による接種をお勧めいたします。